

日本史専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本古代・中世史特論Ⅰ	日本古代史の研究と方法(1)	2	堀 裕	1学期	金	2	1	日本古代・中世史特論Ⅰ
日本古代・中世史特論Ⅱ	日本中世社会の研究	2	七海 雅人	2学期	金	1	3	日本古代・中世史特論Ⅲ
日本近世・近代史特論Ⅰ	近世社会の研究	2	籠橋 俊光	2学期	金	2	4	日本近世・近代史特論Ⅰ
日本近世・近代史特論Ⅱ	日本近現代史研究の現状と課題(7)	2	安達 宏昭	1学期	水	2	5	日本近世・近代史特論Ⅲ
日本史特論Ⅰ		2	佐藤 大介	集中(1学期)			6	対応科目なし
日本史特論Ⅱ	アーカイブズ資源研究の可能性—近世の記録管理を考える—	2	大友 一雄	集中(1学期)			7	対応科目なし
史料学Ⅰ	中世古文書読解	2	柳原 敏昭	1学期	火	2	8	史料学Ⅰ
史料学Ⅱ	近世古文書読解	2	籠橋 俊光	2学期	水	4	9	史料学Ⅱ
日本古代・中世史研究演習Ⅰ	古代史料の研究(2)	2	堀 裕	1学期	火	2	10	日本古代・中世史研究演習Ⅰ
日本古代・中世史研究演習Ⅱ	古代史料の研究(1)	2	堀 裕	2学期	火	2	12	日本古代・中世史研究演習Ⅱ
日本古代・中世史研究演習Ⅲ	中世史料研究(1)中世史料演習(1)	2	柳原 敏昭	1学期	月	4	14	日本古代・中世史研究演習Ⅶ
日本古代・中世史研究演習Ⅳ	中世史料研究(2)	2	柳原 敏昭	2学期	月	4	15	日本古代・中世史研究演習Ⅷ
日本近世・近代史研究演習Ⅰ	近世史研究法(1)	2	籠橋 俊光	1学期	水	5	16	日本近世・近代史研究演習Ⅲ
日本近世・近代史研究演習Ⅱ	近世史研究法(2)	2	籠橋 俊光	2学期	水	5	17	日本近世・近代史研究演習Ⅳ
日本近世・近代史研究演習Ⅲ	近現代史研究法(1)	2	安達 宏昭	1学期	火	5	18	日本近世・近代史研究演習Ⅶ
日本近世・近代史研究演習Ⅳ	近現代史研究法(2)	2	安達 宏昭	2学期	火	5	19	日本近世・近代史研究演習Ⅷ
日本史研究実習Ⅰ	史料整理・保存の理論と方法	2	籠橋 俊光	1学期	金	4・5	20	史料管理学Ⅰ
日本史研究実習Ⅱ	史料整理実習	2	籠橋 俊光	2学期	金	4・5	21	史料管理学Ⅱ

科目名：日本古代・中世史特論Ⅰ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：堀 裕（教授）

講義コード：LM15202， 科目ナンバリング：LJS-HIS601J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 日本古代・中世史特論Ⅰ】

1. 授業題目：

日本古代史の研究と方法（1）

2. Course Title（授業題目）：

Research and method of Japanese ancient history

3. 授業の目的と概要：

日本古代史に関する論文を輪読する。とりあげる論文は、日本古代史に関わる代表的な研究と最新の研究のなかから選ぶこととする。おもに受講生が、論文の内容、その研究成果と課題、研究の背景について報告を行い、それをもとに参加者が討論を行う。これにより、日本古代史の研究成果を学ぶとともに、論文から何を読み取り、何を考えるべきかを検討する。

4. 学習の到達目標：

日本古代史に関する論文輪読を通して、日本古代史に関する研究成果と研究方法を学ぶ。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1.

ガイダンス 進め方と目的、評価方法についての説明

2.

論文を読む方法

3.

論文講読 1

4.

論文講読 2

5.

論文講読 3

6.

論文講読 4

7.

論文講読 5

8.

論文講読 6

9.

論文講読 7

10.

論文講読 8

11.

論文講読 9

12.

論文講読 10

13.

論文講読 11

14.

論文講読 12

15.

まとめ

6. 成績評価方法：

出席と報告（50％）・レポート（50％）

7. 教科書および参考書：

プリント随時配布

8. 授業時間外学習：

配付された論文を読むこと。報告者となっている場合は、レポートの作成をすること。

9. その他：なし

科目名：日本古代・中世史特論Ⅱ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：七海 雅人（非常勤講師）

講義コード：LM25101， 科目ナンバリング：LJS-HIS602J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本古代・中世史特論Ⅲ 】

1. 授業題目：

日本中世社会の研究

2. Course Title (授業題目)：

Research on Japanese mediaeval society

3. 授業の目的と概要：

日本列島の中世社会（平安時代後半～戦国時代・織豊時代）は、人々の個別的な結びつきのあり様が、社会のいたるところに顔をのぞかせるようになり、様々な局面において、自律的な動向や多様性を確かめることができる魅力的な時代と考える。この授業では、そのような中世の社会に関する基本的な文献や史料を読み込み、中世の社会に関する共通認識・到達点などを学習し、これからの課題や方法を探ってみたい。

4. 学習の到達目標：

課題図書を読み、内容を整理し、関連する歴史事項や史料を調べることにより、日本中世史研究の文献・史料の検索と読解に関する基本的な方法・理解を修得することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1) 授業のガイダンス

2) 課題図書の講読と史料研究 (1)

3) 課題図書の講読と史料研究 (2)

4) 課題図書の講読と史料研究 (3)

5) 課題図書の講読と史料研究 (4)

6) 課題図書の講読と史料研究 (5)

7) 課題図書の講読と史料研究 (6)

8) 課題図書の講読と史料研究 (7)

9) 課題図書の講読と史料研究 (8)

10) 課題図書の講読と史料研究 (9)

11) 課題図書の講読と史料研究 (10)

12) 課題図書の講読と史料研究 (11)

13) 課題図書の講読と史料研究 (12)

14) 課題図書の講読と史料研究 (13)

15) 課題図書の講読と史料研究 (14)、授業のまとめ

6. 成績評価方法：

報告の内容 (50%)、議論にかかわる発言の内容 (25%)、ミニレポート (25%)。

7. 教科書および参考書：

①網野善彦『中世荘園の様相』塙書房、1966 年

②『若狭国太良荘史料集成』（既刊分）

8. 授業時間外学習：

□事前学習：課題図書や関係史料を読み、感想・疑問点などを整理する。報告者は報告資料を作成する。

□事後学習：授業の内容や報告資料などをもとに、課題図書や関係史料の内容について自分の考えを整理する

9. その他：なし

オフィスアワーについては開講時に説明する。

科目名：日本近世・近代史特論Ⅰ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光（准教授）

講義コード：LM25201， 科目ナンバリング：LJS-HIS603J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 日本近世・近代史特論Ⅰ】

1. 授業題目：

近世社会の研究

2. Course Title (授業題目)：

Research in Early Modern Society

3. 授業の目的と概要：

日本近世史における代表的ないしは最新の論文を読み、理解し、それをもとに討論する。受講者は指定された論文を事前に読み、順番にレポーターとして要旨等を紹介し、討論に参加する。受講に際しては議論への積極的な参加を求めることになる。必要に応じ、学外の見学なども実施する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 近世史の論文を読むことを通じて、日本近世史への理解を深める。
- (2) 報告、討論の方法を身につけ、自ら論文を執筆する基礎を養成する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1. ガイダンス
- 2. 受講者による報告と討論(1)
- 3. 受講者による報告と討論(2)
- 4. 受講者による報告と討論(3)
- 5. 受講者による報告と討論(4)
- 6. 受講者による報告と討論(5)
- 7. 受講者による報告と討論(6)
- 8. 受講者による報告と討論(7)
- 9. 受講者による報告と討論(8)
- 10. 受講者による報告と討論(9)
- 11. 受講者による報告と討論(10)
- 12. 受講者による報告と討論(11)
- 13. 受講者による報告と討論(12)
- 14. 受講者による報告と討論(13)

15. 全体のまとめ

6. 成績評価方法：

(○) 出席 [20%] (○) レポート [40%] (○) その他（報告の内容・討論への取り組みなど） [40%]

7. 教科書および参考書：

講義中に指示する。

8. 授業時間外学習：

予習として、該当する論文を精読し、あわせて関連する論文を収集・読解し、当該論文の持つ研究史的意義について考察を加える。復習として、講義内容を踏まえつつ当該論文を再読し、習熟に努める。

9. その他：なし

オフィスアワー 火曜日 16：20～17：50 （要予約）

科目名：日本近世・近代史特論Ⅱ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Lecture)II

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：安達 宏昭（教授）

講義コード：LM13203， 科目ナンバリング：LJS-HIS604J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本近世・近代史特論Ⅲ 】

1. 授業題目：

日本近現代史研究の現状と課題 (7)

2. Course Title (授業題目)：

Current status and problems about the study of Japanese Modern History (7)

3. 授業の目的と概要：

日本近現代史研究における現時点での到達点を理解するために、近年に刊行された『日本近代の歴史』シリーズ全 6 巻のうち 4 巻～6 巻を読んでいく。進め方は、受講者が順番にレポーターとなって、担当する箇所の要旨や内容の特徴を最近の研究状況と照らし合わせて報告し、その上で受講者全員によって討論する方式で行う。それにより、相互に認識を深める。

4. 学習の到達目標：

- (1) 日本近現代史に関する最近の通史を読解し、内容を理解できるようになる。
- (2) 通史の内容要旨を発表し、討論することができるようになる。
- (3) 最近の研究成果を通して、近現代史研究の現状と課題について、理解できるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第 1 回：ガイダンスと日本近現代史研究の特徴
第 2 回：日本近現代史研究の方法
第 3 回：明治期の概説書（『生きづらい明治社会』）についての報告と討論
第 4 回：『日本近代の歴史』4 についての報告と討論（1）第 1 次世界大戦
第 5 回：『日本近代の歴史』4 についての報告と討論（2）大戦後の政治
第 6 回：『日本近代の歴史』4 についての報告と討論（3）関東大震災前後
第 7 回：『日本近代の歴史』4 についての報告と討論（4）護憲運動
第 8 回：『日本近代の歴史』5 についての報告と討論（1）憲政の常道
第 9 回：『日本近代の歴史』5 についての報告と討論（2）軍部の台頭
第 10 回：『日本近代の歴史』5 についての報告と討論（3）憲政の常道の終焉
第 11 回：『日本近代の歴史』5 についての報告と討論（4）軍部主導の政治
第 12 回：『日本近代の歴史』6 についての報告と討論（1）日中全面戦争
第 13 回：『日本近代の歴史』6 についての報告と討論（2）第 2 次世界大戦
第 14 回：『日本近代の歴史』6 についての報告と討論（3）日米開戦
第 15 回：『日本近代の歴史』6 についての報告と討論（4）「大東亜共栄圏」

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%] ・ (○) リポート [50%] ・ (○) 出席 [20%] ・ (○) その他（報告の内容、討論への取り組みなど） [30%]

7. 教科書および参考書：

（教科書）松沢裕作『生きづらい明治社会』岩波書店、2018 年。（参考書）櫻井良樹『日本近代の歴史』4（国際化時代「大正日本」）、川島真『日本近代の歴史』5（戦争とファシズムの時代へ）、源川真希『日本近代の歴史』6（総力戦のなかの日本政治）（いずれも、吉川弘文館、2017 年）

8. 授業時間外学習：

上記の教科書や参考書の指定された箇所を、事前に読んで、議論できるようにしておく。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜日 16：20～17：50

科目名：日本史特論Ⅰ／History in Japan(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

学期：集中(1 学期)、 単位数：2

担当教員：佐藤 大介（兼務教員）

講義コード：LM98809、 科目ナンバリング：LJS-HIS605J、 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

歴史資料保全の実践

2. Course Title (授業題目)：

Passing on the Historical heritage on Tohoku area

3. 授業の目的と概要：

いま、人文社会学研究への「社会的要請」とは何か、ということが議論されています。日本史を学ぶ者にとっては、「先祖や地元の歴史を知りたい・伝えたい」という思いに応えることが、その一つといえるかもしれません。この講義では、地域社会に今なお膨大に残されている歴史資料を守り、伝えるための課題や、そのための実践を、座学、議論、および実際の地域での活動を通じて学んでいきます。

4. 学習の到達目標：

- ・過去の歴史資料保存をめぐる経緯を踏まえながら、地域社会に残された歴史資料を継承するための課題を学びます。
- ・講義を通じて、「社会にとっての歴史研究者の存在意義とは何か」ということを自ら考える力を付けます。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「歴史史料保全活動」の経緯①—終戦直後～1960 年代
2. 「歴史資料保全活動」の経緯②—1970 年代～1990 年代
3. 「歴史資料保全活動」の経緯③—1990 年代～現在
4. 史料保全活動の課題①—報告 1
5. 史料保全活動の課題②—報告 2
6. 史料保全活動の課題③—討論
7. 地域の歴史資料を守る①—文書資料の応急処置・洗浄
8. 地域の歴史資料を守る②—文書資料の応急処置・乾燥
9. 地域の歴史資料を守る③—文書資料の応急処置・修復
10. 地域の歴史資料を守る④—保管環境を整える
11. 地域の歴史資料を守る⑤—所蔵者のお話をうかがう
12. 地域の歴史資料を守る⑥—所蔵者との対話
13. 地域の歴史資料を守る⑦—史料の整理
14. 地域の歴史資料を守る⑧—デジタルカメラでの撮影・管理
15. 地域の歴史資料を守る⑨—まとめ

6. 成績評価方法：

- ・平常点（出席、討論への参加）（40 パーセント）
- ・レポート（60 パーセント）

7. 教科書および参考書：

- ・奥村弘『大震災と歴史資料保存』（吉川弘文館 2011 年）
 - ・平川新・佐藤大介編『歴史遺産を未来へ』（東北大学東北アジア研究センター報告 2012 年）
 - ・奥村弘編『歴史文化を大災害から守る 地域歴史資料学の構築』（東京大学出版会 2014 年）
- ほか、講義中指示する。

8. 授業時間外学習：

- ・東日本大震災で被災した、歴史資料の救済・保全活動のボランティアが、東北大学災害科学国際研究所で行われている。一連の活動に継続して参加し、交流を深めることは、本講義の内容を、真に体得するために有用である。
- ・上記の参考文献、およびそれらに引用されている関連文献に、可能な範囲で目を通しておくこと。

9. その他：なし

- ・講義の後半、大学を離れた地域での講義となる。全日程参加出来るよう予定を調整しておくこと。なおそれらにかかる実費は、受講者の負担とする。

科目名：日本史特論Ⅱ／ History in Japan(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

学期：集中(1 学期)， 単位数：2

担当教員：大友 一雄（非常勤講師）

講義コード：LM98810， 科目ナンバリング：LJS-HIS606J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

アーカイブズ資源研究の可能性—近世の記録管理を考える—

2. Course Title (授業題目)：

Possibility of the archives resources study in the Early Modern Japan

3. 授業の目的と概要：

近年、文書・記録の管理問題が社会制度などとの関わりで頻繁に取り上げられる。情報の有無、改竄、虚偽などが組織の存続を危うくし、ずさんな管理は、消えた年金問題などを挙げるまでもなく、個々人の生活に直結する。文書の作成・伝達・保管・活用などの全体的な管理がまさに課題になっている。しかし、情報管理の問題を歴史学で論じた研究は多いといえない。授業では、近現代の官僚的な記録管理に密接に関連すると考えられる江戸時代の記録管理、とくに江戸幕府の管理についてアーカイブズ学における資源研究の観点から考えたい。

4. 学習の到達目標：

現存するアーカイブズ資源の特徴を、江戸時代の記録管理と組織の構造・機能との関わりで理解するとともに、関連する資料の分析を行う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 序論—近世アーカイブズ資源研究の視点
2. 近世の身分序列と文書認識
3. 近世の身分序列と文書制度
4. 幕府寺社奉行の記録管理
5. 幕府寺社奉行と情報継承
6. 幕府奏者番文書の伝来・特徴
7. 幕府奏者番と情報管理
8. 幕府奏者番文書の特徴
9. 幕府老中職と執務継承—師範・弟子制度—
10. 幕府老中職と情報ネットワーク
11. 幕府老中職における文書システム
12. 幕府老中職文書の伝来
13. 転封と文書
14. 領主文書の構造と伝来
15. 授業のまとめと試験

6. 成績評価方法：

筆記試験による。

7. 教科書および参考書：

教科書は使わない。プリントを配布して行う。

8. 授業時間外学習：

講義をもとに参考文献を読み進め、理解を深める。

9. その他：なし

質問などは、随時受け付ける。

科目名：史科学Ⅰ／ Archival Science I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭（教授）

講義コード：LM12204， 科目ナンバリング：LJS-HIS607J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 史科学Ⅰ 】

1. 授業題目：

中世古文書読解

2. Course Title（授業題目）：

Study of Medieval Japanese Primary Documents

3. 授業の目的と概要：

古文書とは、差出人と受取人とは明示されている歴史的資料をいう（日記や編纂物、文学作品は古文書には含まれない）。古文書は、歴史研究にとって最も大切な史料である。本講では、鎌倉幕府、室町幕府、戦国大名が発給した文書の原文（写真）を読むことで、中世の文書の基礎的な読解力、語彙力を身につける。また、様式の展開についてはその歴史的背景について理解を深める

4. 学習の到達目標：

日本中世文書の読解力を身につけ、様式についての基本的な知識を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1) ガイダンス①
- 2) ガイダンス②
- 3) 鎌倉幕府文書 下文
- 4) 鎌倉幕府文書 政所下文
- 5) 鎌倉幕府文書 御教書
- 6) 鎌倉幕府文書 下知状
- 7) 室町幕府文書 御判御教書
- 8) 室町幕府文書 御内書
- 9) 室町幕府文書 奉書系文書
- 10) 室町幕府文書 命令の下達・施行
- 11) 軍事関係文書
- 12) 戦国大名文書①
- 13) 戦国大名文書②
- 14) 譲状、起請文など
- 15) 授業のまとめと試験

6. 成績評価方法：

筆記試験 [60%]・出席 [20%]・その他（講義中における発表の内容、講義への参加度）[20%]

7. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。

References are handed out at every class.

8. 授業時間外学習：

受講者には毎回、古文書（写真版コピー）を筆写する課題が出される。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated text (pictures of ancient documents) for each class. They are also required to make a thorough review, mainly by completing assignments.

9. その他：なし

古文・漢文の基礎的読解力を要する。

It is recommended that participating students have basic skills in reading classical Japanese and Chinese.

科目名：史科学Ⅱ／ Archival Science II

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

学期：2 学期， **単位数：**2

担当教員：籠橋 俊光（准教授）

講義コード：LM23403， **科目ナンバリング：**LJS-HIS608J， **使用言語：**日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 史科学Ⅱ 】

1. 授業題目：

近世古文書読解

2. Course Title（授業題目）：

Reading Early Modern Documents

3. 授業の目的と概要：

古文書は歴史学において最も重要な材料であり、その読解は必要不可欠な技術である。なかでも近世史研究においては、実際に膨大な原文書を読み、取り扱う能力が必要とされる。本講義は、近世古文書のなかでも代表的な文書様式について理解を深め、読解能力を培うものである。さまざまな近世の古文書が自力で読めるようになることを目標とするため、テキストとして配布する古文書（コピー）について毎回受講者の中から指名し、読みを発表させる。

4. 学習の到達目標：

(1) 近世古文書に関する基礎的知識を持つ。(2) 近世古文書の見解能力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・近世古文書学について
2. 近世古文書の特徴と基礎的知識
3. 文字の見解法とその訓練
4. 武家文書（1）将軍関係文書・将軍発給文書①
5. 武家文書（2）将軍発給文書②
6. 武家文書（3）将軍発給文書③
7. 武家文書（4）老中発給文書①
8. 武家文書（5）老中発給文書②
9. 武家文書（6）幕府発給廻状
10. 町方・村方文書（1）定
11. 町方・村方文書（2）人別帳・検地帳
12. 町方・村方文書（3）年貢関係文書
13. 町方・村方文書（4）商業関係文書・訴願関係文書
14. 町方・村方文書（5）家・個人文書
15. 講義のまとめ・試験

6. 成績評価方法：

出席[30%]・筆記試験[60%]・その他（報告の内容など）[10%]

7. 教科書および参考書：

随時プリント配布。受講に際して古文書読解用の辞典類を用意すること。

8. 授業時間外学習：

予習として、事前に配布されたプリントの古文書を古文書解読辞典を用いて読解し、講義で読みを口頭で報告できるようにする。受講後、講義内容をもとに自らの読みを確認し、習熟に努める。

9. その他：なし

受講に際しては、学部生へのアドバイザーとしての役割も期待する。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本古代・中世史研究演習Ⅰ／Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

学期：1学期，単位数：2

担当教員：堀 裕（教授）

講義コード：LM12205，科目ナンバリング：LJS-HIS609J，使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 日本古代・中世史研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

古代史料の研究（2）

2. Course Title（授業題目）：

research of ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：

日本古代史を学ぶための基本史料である『令集解』をテキストとしてとりあげる。『令集解』は、九世紀に編纂された養老令の私撰注釈書である。記載された令本文と古代の法律家の注釈を精読するとともに、関連する史料も調査し、読解する。これにより、史料の特質を明らかにし、あわせて日本古代の社会や国家の特色を析出する。なお、授業では各回担当者が報告する。

4. 学習の到達目標：

日本古代の法典である律令に関する知識を得て、理解を深めるとともに、その内容から日本古代の歴史像を構築する力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1.
ガイダンス 『令集解』とは何か。講読のすすめかた。

2.
『令集解』を読む（1）

3.
『令集解』を読む（2）

4.
『令集解』を読む（3）

5.
『令集解』を読む（4）

6.
『令集解』を読む（5）

7.
『令集解』を読む（6）

8.
『令集解』を読む（7）

9.
『令集解』を読む（8）

10.
『令集解』を読む（9）

11.
『令集解』を読む（10）

12.
『令集解』を読む（11）

13.
『令集解』を読む（12）

14.
『令集解』を読む（13）

15.

まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（50％）報告および討論などでの授業参加（50％）

7. 教科書および参考書：

テキスト 新訂増補国史大系普及版『令集解』（吉川弘文館）。

8. 授業時間外学習：

オフィスアワーは金曜日 4 限です。来訪時は事前に連絡をください。

9. その他：なし

科目名：日本古代・中世史研究演習Ⅱ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：堀 裕（教授）

講義コード：LM22204， 科目ナンバリング：LJS-HIS610J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本古代・中世史研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

古代史料の研究（1）

2. Course Title（授業題目）：

research of ancient historical materials

3. 授業の目的と概要：

平安時代を学ぶための基本史料である『小右記』をテキストとしてとりあげる。『小右記』は、平安時代中期の男性貴族の日記である。記載された内容を精読するとともに、関連する史料も調査し、読解する。このことにより、史料としての扱い方に習熟するとともに、あわせて古記録に基づいた歴史像の構築の方法について理解を深める。なお、授業では各回担当者が報告する。

4. 学習の到達目標：

日本古代の古記録、とくに男性貴族の記した日記に関する知識を得て、理解を深めるとともに、その内容から日本古代の歴史像を構築する力を養う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1.
ガイダンス 『小右記』とは何か。講読のすすめかた。

2.
『小右記』を読む（1）

3.
『小右記』を読む（2）

4.
『小右記』を読む（3）

5.
『小右記』を読む（4）

6.
『小右記』を読む（5）

7.
『小右記』を読む（6）

8.
『小右記』を読む（7）

9.
『小右記』を読む（8）

10.
『小右記』を読む（9）

11.
『小右記』を読む（10）

12.
『小右記』を読む（11）

13.
『小右記』を読む（12）

14.

『小右記』を読む（13）

15.

まとめ

6. 成績評価方法：

レポート（50％）・授業での報告と討論への参加（50％）

7. 教科書および参考書：

テキスト 『大日本古記録 小右記』1～11（岩波書店）。購入の必要はない。

8. 授業時間外学習：

オフィスアワーは金曜4限になります。来訪の際は事前に連絡下さい。

9. その他：なし

科目名：日本古代・中世史研究演習Ⅲ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭（教授）

講義コード：LM11403， 科目ナンバリング：LJS-HIS611J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本古代・中世史研究演習Ⅶ 】

1. 授業題目：

中世史料研究(1)

中世史料演習(1)

2. Course Title (授業題目)：

Research on medieval historical materials 1

3. 授業の目的と概要：

中世前期とは、おおむね平安時代後半から鎌倉時代を指す。また、後期は南北朝時代から戦国時代を指す。前期と後期とは、社会の構造が大きく異なっていると言われている。この授業では、中世後期の日記史料の精読を通じて、史料の読解力を錬磨するとともに、中世後期＝室町時代の政治や社会について検討を加える。当然のことながら、授業は受講生による発表と議論が中心となる。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本中世史に関する高度な史料読解力・研究能力を養う。

(2) 報告・討論の方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1) ガイダンス

2) 学生による報告と討論

3) 学生による報告と討論

4) 学生による報告と討論

5) 学生による報告と討論

6) 学生による報告と討論

7) 学生による報告と討論

8) 学生による報告と討論

9) 学生による報告と討論

10) 学生による報告と討論

11) 学生による報告と討論

12) 学生による報告と討論

13) 学生による報告と討論

14) 学生による報告と討論

15) 授業のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・その他（授業中における発表の内容、授業への参加度）[40%]

7. 教科書および参考書：

続群書類従・補遺二『看聞御記』上・下（続群書類従完成会）

Zoku-Gunsyoryuzyu Supplement2 “Kanmon Gyokii” First volume and second volume (Zoku-Gunsyoryuzyu-Kanseikai)

8. 授業時間外学習：

報告者はおおよそ 1 月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も、史料を読み、疑問点・問題点を整理した上で授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations one month in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments be

9. その他：なし

日本古代・中世史研究演習「中世史料研究」(1)(2)は連続履修すること。

Students must take “Research on medieval historical materials” 1 and 2 consecutively.

科目名：日本古代・中世史研究演習Ⅳ／ Ancient and Medieval History in Japan(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：柳原 敏昭（教授）

講義コード：LM21403， 科目ナンバリング：LJS-HIS612J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本古代・中世史研究演習Ⅷ】

1. 授業題目：

中世史料研究(2)

2. Course Title (授業題目)：

Research on medieval historical materials 2

3. 授業の目的と概要：

中世史料研究(1)の続講。単なる史料の読み方や基本的な知識を学ぶ場ではなく、問題点を発見し議論する場と位置づけているので、発表者には問題提起的な報告をすることが求められる。また、報告にあたっていない学生も事前に資料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本中世史に関する高度な史料読解力を養う。

(2) 報告・討論の方法を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1) ガイダンス

2) 学生による報告と討論

3) 学生による報告と討論

4) 学生による報告と討論

5) 学生による報告と討論

6) 学生による報告と討論

7) 学生による報告と討論

8) 学生による報告と討論

9) 学生による報告と討論

10) 学生による報告と討論

11) 学生による報告と討論

12) 学生による報告と討論

13) 学生による報告と討論

14) 学生による報告と討論

15) 授業のまとめ

6. 成績評価方法：

レポート [40%]・出席 [20%]・授業中における発表の内容と授業への参加度 [40%]

7. 教科書および参考書：

続群書類従・補遺二『看聞御記』上・下（続群書類従完成会）

Zoku-Gunsyoryuzyu Supplement2 “Kanmon Gyoki” First volume and second volume (Zoku-Gunsyoryuzy-Kanseikai)

8. 授業時間外学習：

報告者はおおよそ1月前から準備を行うこと。報告にあたっていない学生も事前に史料を読み、疑問点・問題点を整理してから授業に臨むこと。

Students who are presenting are to prepare their presentations one month in advance. Students who are not presenting are to read the source materials and to prepare questions and comments

9. その他：なし

日本古代・中世史研究演習「中世史料研究」(1)(2)は連続履修すること。

Students must take “Research on medieval historical materials” 1 and 2 consecutively.

科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅰ／Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 5講時

学期：1学期，単位数：2

担当教員：籠橋 俊光（准教授）

講義コード：LM13503，科目ナンバリング：LJS-HIS613J，使用言語：日本語

【（平成30年度以前入学者）対応科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：

近世史研究法（1）

2. Course Title（授業題目）：

Research Methods in Early Modern History（1）

3. 授業の目的と概要：

受講者各自が、日本近世史に関して自らの研究テーマに基づいて研究報告をし、それを参加者全員で討議する。研究の実践の場として、受講者自身の論文執筆に資することはもちろんであるが、報告・司会の方法に習熟し、加えて他の受講者の意見や報告を通じて新たな知見を得ることもねらいとする。必ず「近世史研究法（2）」と連続で受講すること。

4. 学習の到達目標：

（1）日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。（2）報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 受講者による報告と討論（1）

3. 受講者による報告と討論（2）

4. 受講者による報告と討論（3）

5. 受講者による報告と討論（4）

6. 受講者による報告と討論（5）

7. 受講者による報告と討論（6）

8. 受講者による報告と討論（7）

9. 受講者による報告と討論（8）

10. 受講者による報告と討論（9）

11. 受講者による報告と討論（10）

12. 受講者による報告と討論（11）

13. 受講者による報告と討論（12）

14. 受講者による報告と討論（13）

15. 受講者による報告と討論（14）

6. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

7. 教科書および参考書：

特になし。

8. 授業時間外学習：

授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

9. その他：なし

必ず「近世史研究法（2）」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅱ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光（准教授）

講義コード：LM23504， 科目ナンバリング：LJS-HIS614J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本近世・近代史研究演習Ⅳ 】

1. 授業題目：

近世史研究法（2）

2. Course Title（授業題目）：

Research Methods in Early Modern History（2）

3. 授業の目的と概要：

「近世史研究法（1）」の続講。受講者は、自らの報告内容に講義中での議論を踏まえ、論文の執筆を目指していく。受講者には、主体的・積極的な議論への参加を求める。必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。

4. 学習の到達目標：

(1) 日本近世史において、高度な資料読解能力と、自主的な研究能力を培う。(2) 報告・討論をもとに、分析をまとめ、研究論文の執筆を準備する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 受講者による報告・討論(1)

3. 受講者による報告・討論(2)

4. 受講者による報告・討論(3)

5. 受講者による報告・討論(4)

6. 受講者による報告・討論(5)

7. 受講者による報告・討論(6)

8. 受講者による報告・討論(7)

9. 受講者による報告・討論(8)

10. 受講者による報告・討論(9)

11. 受講者による報告・討論(10)

12. 受講者による報告・討論(11)

13. 受講者による報告・討論(12)

14. 受講者による報告・討論(13)

15. 受講者による報告・討論(14)

6. 成績評価方法：

出席[20%]・レポート[40%]・その他（報告の内容・討論への取り組みなど）[40%]

7. 教科書および参考書：

特になし。

8. 授業時間外学習：

授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

9. その他：なし

必ず「近世史研究法（1）」と連続で受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅲ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：安達 宏昭（教授）

講義コード：LM12502， 科目ナンバリング：LJS-HIS615J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本近世・近代史研究演習Ⅶ 】

1. 授業題目：

近現代史研究法 (1)

2. Course Title (授業題目)：

Method of Studies on Japanese Modern History (1)

3. 授業の目的と概要：

近現代史における基礎的な研究内容について学び、受講者相互に認識を深めるとともに、各自が研究テーマを設定して、その問題関心、視角、実証分析について発表する。そして、それに対する討論を通して、発表者の研究方法について課題を明確にする。

4. 学習の到達目標：

- (1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。
- (2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。
- (3) 上記の 2 つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義

2. 受講者の研究報告と討論 (1)
3. 受講者の研究報告と討論 (2)
4. 受講者の研究報告と討論 (3)
5. 受講者の研究報告と討論 (4)
6. 受講者の研究報告と討論 (5)
7. 受講者の研究報告と討論 (6)
8. 受講者の研究報告と討論 (7)
9. 受講者の研究報告と討論 (8)
10. 受講者の研究報告と討論 (9)
11. 受講者の研究報告と討論 (10)
12. 受講者の研究報告と討論 (11)
13. 受講者の研究報告と討論 (12)
14. 受講者の研究報告と討論 (13)
15. 受講者の研究報告と討論 (14)

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他（発表態度、受講態度）[40%]

7. 教科書および参考書：

特になし。

8. 授業時間外学習：

報告者の研究テーマに関する史実などを、事前に学習しておく。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当) は、原則として連続して履修すること。

科目名：日本近世・近代史研究演習Ⅳ／ Early Modern and Modern History in Japan(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 火曜日 5 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：安達 宏昭（教授）

講義コード：LM22502， 科目ナンバリング：LJS-HIS616J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本近世・近代史研究演習Ⅷ】

1. 授業題目：

近現代史研究法 (2)

2. Course Title (授業題目)：

Method of Studies on Japanese Modern History (2)

3. 授業の目的と概要：

日本近世・近代史研究演習Ⅲの研究発表をふまえて、さらに研究を進めて、その成果を報告する。そして、討論を通して課題を絞り、論文などにまとめていく。このことを通して、受講者が、日本近現代史における現在の研究内容について学び、新しい歴史研究の構築とその内容の理解について認識を深める。

4. 学習の到達目標：

- (1) 先行研究を分析・批判して、自らの研究課題を選定できるようになる。
- (2) 自らの研究課題にそって、自分で史料を収集し分析できるようになる。
- (3) 上記の 2 つの点をふまえて、歴史研究の研究論文をまとめることができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・日本近現代史研究の意義

2. 受講者の研究報告と討論 (1)
3. 受講者の研究報告と討論 (2)
4. 受講者の研究報告と討論 (3)
5. 受講者の研究報告と討論 (4)
6. 受講者の研究報告と討論 (5)
7. 受講者の研究報告と討論 (6)
8. 受講者の研究報告と討論 (7)
9. 受講者の研究報告と討論 (8)
10. 受講者の研究報告と討論 (9)
11. 受講者の研究報告と討論 (10)
12. 受講者の研究報告と討論 (11)
13. 受講者の研究報告と討論 (12)
14. 受講者の研究報告と討論 (13)
15. 受講者の研究報告と討論 (14)

6. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [40%]・(○) 出席 [20%]・(○) その他（発表態度、受講態度）[40%]

7. 教科書および参考書：

特になし。

8. 授業時間外学習：

報告者の研究テーマに関する史実などを、事前に学習しておく。

9. その他：なし

オフィスアワー：水曜日 16:20～17:50、要予約

履修要件：「近現代史研究法 (1) (2)」(安達担当) は、原則として連続して履修すること

科目名：日本史研究実習Ⅰ／History in Japan(Advanced Laboratory Work)Ⅰ

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時. 前期 金曜日 5 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光（准教授）

講義コード：LM15405， 科目ナンバリング：LJS-HIS617J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 史料管理学Ⅰ】

1. 授業題目：

史料整理・保存の理論と方法

2. Course Title（授業題目）：

Document Organization and Preservation: Purpose and Methods

3. 授業の目的と概要：

歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問である。しかし、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。文字・画像の情報だけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料の特質や史料群の構造を理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。さらにそれをもとにして、博物館・図書館などとの機能の相違や、実物史料の取り

4. 学習の到達目標：

史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・史料保存の意義と意味（1）

2. 史料保存の意義と意味（2）

3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-

4. アーカイブズの理論(1)

5. アーカイブズの理論(2)

6. 史料調査・整理の実際

7. 目録論

8. 目録作成の技術（1）

9. 目録作成の技術（2）

10. 歴史資料の取り扱いとその実践

11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際

12. マイクロフィルム・カメラの取り扱い

13. フィールド実習

14. 史料整理の基礎（1）

15. 史料整理の基礎(2)

6. 成績評価方法：

出席[20%]・受講態度[40%]・レポート[40%]

7. 教科書および参考書：

随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。

8. 授業時間外学習：

授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

9. その他：なし

必ず「史料整理実習」と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）

科目名：日本史研究実習Ⅱ／History in Japan(Advanced Laboratory Work)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時. 後期 金曜日 5 講時

学期：2 学期, 単位数：2

担当教員：籠橋 俊光（准教授）

講義コード：LM25404, 科目ナンバリング：LJS-HIS618J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 史料管理学Ⅱ 】

1. 授業題目：

史料整理実習

2. Course Title (授業題目)：

Practicum in Document Organization

3. 授業の目的と概要：

実際に史料整理を行う。大規模な文書群を対象として取り上げ、史料の取り扱い、現状の把握、基本データの採録、目録作成、保存に向けての作業など、史料整理に関する基本的な実務を実際に行う。さらに、自ら整理した史料について、その個別の内容の理解だけではなく、文書群のなかにおける位置づけや文書群そのものの構造など、幅広く文書群を把握する方法を学ぶ。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れるので、その際には特に

4. 学習の到達目標：

実際に実物の史料を整理し、「史料整理・保存の理論と方法」において学習した史料整理の理論と方法を体得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 史料整理実習 (1)

3. 史料整理実習 (2)

4. 史料整理実習 (3)

5. 史料整理実習 (4)

6. 史料整理実習 (5)

7. 史料整理実習 (6)

8. 史料整理実習 (7)

9. 史料整理実習 (8)

10. 史料整理実習 (9)

11. 史料整理実習 (10)

12. 史料整理実習 (11)

13. 史料整理実習 (12)

14. 史料整理実習 (13)

15. 史料整理実習 (14)・整理内容報告

6. 成績評価方法：

出席[30%]・受講態度[70%]

7. 教科書および参考書：

各自古文書読解用辞典類を持参すること。

8. 授業時間外学習：

前期内容を十分に復習し、あわせて古文書読解の練習に努める。

9. その他：なし

必ず「史料整理・保存の理論と方法」と連続して受講すること。また、受講に際しては、学部生へのアドバイザーとしての役割を強く期待する。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）